

「イギリス文学史」授業評価報告書

英語教育講座 竹永雄二

1. 授業の目的

英語教師の教養として、イギリス文学の歴史についての基本的知識を得る。特に **Shakespeare** (劇)、**Dickens** (小説)、**Wordsworth** (詩) を中心とする主要な作家の作品の抜粋を読み、イギリス古典文学作品に対する鑑賞力を高める。

2. 到達目標

(1)英語教師の教養として、イギリス文学の歴史について基本的な知識を得る。(知識)

(2)代表的作品の抜粋を原文で読み、鑑賞力を高める。(理解)

(3)多様な視点から作品を読み解く力を高める。(視点、思考)

(4)児童文学の多読により、持続的な読書の習慣を身につける。(関心、姿勢)

3. 前年度からの持続的取り組み

今年度は前年度の授業改善の取り組みの継続である。

1)児童文学の多読

平易な作品を自分の力で楽しんで読み、持続的な多読の習慣を身につけさせることを目的として、授業開始から10分間を黙読の時間に充てた。選んだ作品はC. S. ルイス作『ライオンと魔女』(*The Lion, the Witch, and the Wardrobe*)である。この作品を取り上げた理由は、英語が平易であること、またキリスト教をいう異文化を理解するのに有益であると考えたからである。多読の英語力向上への効果については、既に Krashen(1985)等の研究によって実証されている。彼の研究によれば、特にリーディング力、語彙力、文法力、スピーキング力の向上に効果があると言われている。さらに作品のコンテキストから、次の展開を予測す

る力の向上に効果があると言われている。予測する力の向上は作品を読むスピードアップつながる。このようなことが全体的にうまく機能すれば、楽しく読むことで英語力を向上させ、多読に対して積極的な姿勢を形成できるのではと期待した。1回の授業で用意した分量は作品の8頁で、B4用紙1枚に両面コピーして、毎回授業の開始時に配布した。黙読ではあるが主体的な読解作業は一つのアクティブ・ラーニングにもなっている。読後の活動として、本年度は reading を speaking へとつなげることを狙いとして、retelling の活動を取り入れてみた。また読み残した箇所は授業外で読むことで、授業外学習の時間の増加につながることも期待された。

4. 学生の評価

授業の15回目に（本年度は個人的事情で採取試験を中止したことと、補講の周知ができなかったため、最後の授業にでた学生は5名であった）、授業評価アンケートを行った。ここでは児童文学の多読の効果と授業時間外学習の2点に絞ってアンケート内容と結果をあげる。

1) アンケート内容と結果（回答者6名）

授業者の作った調査項目への評価（一部）

- ①強くそう思う
- ②まあそう思う
- ③どちらとも言えない
- ④あまりそう思わない
- ⑤全くそう思わない

1.多読は有意義であったと思いますか。

①	②	③	④	⑤
3	3	0	0	0

2.多読の教材の難易度は適切であったと思いますか。

3	3	0	0	0
---	---	---	---	---

3.多読を今後も継続していこうと思いますか。

2	3	0	0	0
---	---	---	---	---

4.この授業は有意義であったと思いますか。

0	10	5	2	0
---	----	---	---	---

5.授業時間外学習はどの程度行いましたか。

- ①週平均 2 時間以上
- ②週平均 1~2 時間
- ③週平均 30 分~1 時間
- ④週平均 30 分未満
- ⑤まったく行わない

①	②	③	④	⑤
0	2	1	3	0

6.授業時間外学習のために必要とされる工夫。

(複数回答可)

- ①毎回宿題を課す。
- ②毎回予習を課す。
- ③シラバスに推薦図書をリストアップ。
- ④原作を平易な英語で書いた reader の使用。
- ⑤調査に基づいた発表、討論を取り入れる。

①	②	③	④	⑤
0	3	1	2	2

7.この授業の目的・目標は達成されたと思いますか。

2	4	0	0	0
---	---	---	---	---

-----自由記述-----

授業改善のための提案

- ・劇をしたように、プレゼンのようなものは面白かったし、話が印象に残りやすいので続けてほしい。
- ・多読の文献を先配りして予習にしてもらえると、授業中の **retelling** がもう少し有意義なものになったのではないかと思う。
- ・学生が調べて来たことを発揮する機会を増やす。
- ・多くの原文に触れるようにしたら、作者の特徴等が分かりやすくなる。
- ・シェイクスピアの作品に関する劇は、見る側も

作る側も非常に面白かったので継続してほしい。

- ・毎回英文を読んだ後、**rewriting** の機会をより設ければよかったと思う。**retelling** も重要だが **rewriting** の方がより多くの学生が活動に参加できる。

授業時間外学習のための提案

- ・多読についてのテストを 2~3 回行くと、家でもっと読もうという気持ちが高まる。
- ・1ヶ月ごとに個人で読んだ作品の感想などを書いてもらうことにより、読む作品は増えると思う。
- ・児童文学作品を読破するためにも、チャプターごとに割当をして、最後まで読み切れるようにしたらよいと感じた。

5. 今後の改善に向けて

改善点 1

多読への関心を高めるために、また内容理解の補助になるように、テキストと併せて映画版を使用した。これは狙い通りで一定の効果があった。授業時間外学習の促進と言う点から、事前学習の課題にし、それに基づいて **retelling** や討論という活動につなげる工夫が必要である。

改善点 2

授業の前半では、参加型の活動を取り入れ、特にシェイクスピアの劇を扱った際には、グループ分けしてグループごとに作品を指定し、学生に作品を紹介してもらう活動を取り入れた。ただ授業の後半は、説明ばかりに流れてしまった。受講者が積極的に参加できるような活動の工夫が必要である。

改善点 3

「イギリス文学史」はカリキュラム上、英語免許状取得のための必修科目として位置づけられているので、英語教育とのつながりを明確にしている。取り組みがまだ不足している。人の心を動かし、生きていく力を与えてくれる、英語の力強さ、美しさを伝えていけるような工夫と努力が必要である。